

総合的な学習研究部 第2回研修会

令和6年8月5日(月)

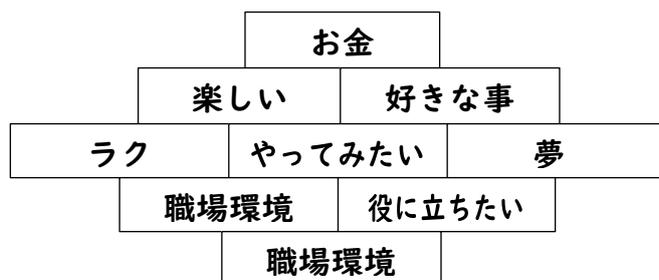
三ヶ日文化ホール

I 実践

① 「未来の私 社会への一歩 ～夢に向かってLet GO!～」

城北小学校 今村省吾先生

課題を「自分は将来どんな職業に就いて、どのように生きていくのだろうか。」とし、20年後の自分を想像させる実践を行った。まず、20年後の自分の姿を想像させた。将来自分が大切にしていきたい働く理由について、グループで話し合い、20年後の自分の職業について考えさせた。働く理由について考える際に、ダイヤモンドランキングを使用することで、働く理由について多面的、多角的に見たりすることができるようにする工夫や、児童にとって身近なYoutuberやプロゲーマーの動画を見せることで、働くことの目的や意義についてより考えられるような工夫をした。成果として、子供の変容が見られ、将来の生き方について考えることができた。

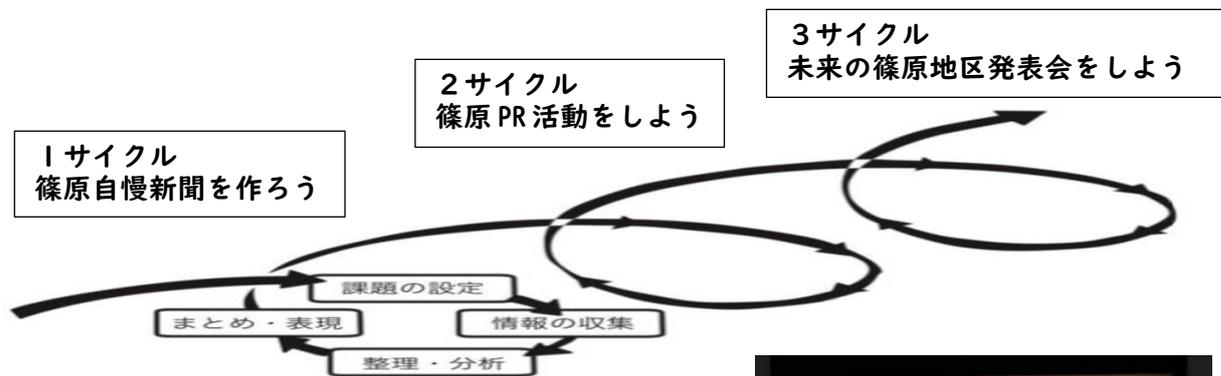


ダイヤモンドランキング

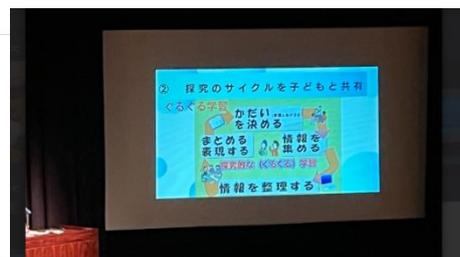
② 「ようこそしの原をPRし隊！」

篠原小学校 長谷川大祐先生

「資質・能力の習得を目指すための学びのデザイン」をテーマとし、「しの原PRし隊」として篠原地区について詳しく調べる活動を行った。



以上のように、1年で3つのサイクルを回した。サイクルの中にある「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を「ぐるぐる学習」として子供たちに伝え、今日は何をやるのか、授業



のはじめに確認した。「マイプランシート」という、「学び方」「振り返り」をクラス全員が共有できるシートを使用することによって、学びの選択や見通しの共有、次の学びへのモチベーションとすることができた。

2 講話

演題：「総合的な学習の時間における『個別最適な学び』と

『協働的な学び』の一体的な充実に向けて」

愛知淑徳大学 準教授 加藤 智 氏

現在の教育現場に求められているものは、コンピテンシーの授業である。PISA2022の結果をみると日本は「自分で計画を立てることが苦手」ということが分かった。そのため、自分でハンドルを握り、ゴールへ向かう力、また周りを巻き込み学ぶ力、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が求められる。

協働的な学びとして、子供一人一人の良い点や可能性を生かすことが大切である。

それに加えて、「大人の本気」（情動的な大人の姿）を見せることも、子供たちが学びたいと思うきっかけになる。個別最適な学びのためには、子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度に応じた的確に課題を設定できるようにする必要がある。

「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体化を充実させていくことが、これからの総合的な学習の時間では求められる。

【ワークショップ】

講話の最後には、同じ部会ごと、総合的な学習の時間でどのようなことをしているか共有した。

